



うりゅう

# こんにちは 議会であ

発行／雨竜町議会 編集／議会広報特別委員会



決意を新たに（令和2年1月7日）



●200号発行挨拶	2
●第4回定例会の審議結果	3~4
●行政常任委員会報告	4
●一般質問 4名の議員が4項目にわたって質問	5~9
●議員研修報告	10

# 議会広報誌発行200号にあたって

雨竜町議会の広報誌が創刊より50年、200号発行の節目を迎えることとなりました。

第1号は1970（昭和45）年6月に「議会広報」として創刊され、1975（昭和50）年10月発行の23号より「議会だより」、1998（平成10）年5月発行の113号より現在の「こんにちは議会です」と名称が変わりました。

創刊から半世紀にわたり、議会でどのような事が審議決定されているのかを町民の皆様に周知し、議会活動に関心とご理解いただくことを目的に、議会定例会ごと年4回の発行を行い現在に至っております。

この間、産業の発展、定住促進や少子高齢化対策、地方分権の推進と町村合併問題、行財政改革をはじめ、住民生活向上と福祉増進、教育環境の充実など、豊かな住み良いまちづくりに向けた多くの重要案件や課題について町と議会が議論を重ね、その内容を都度議会報告として紙面を通じお伝えしてまいりました。

町議会は町民の皆様から選ばれた議員によって構成されております。これら議会活動の情報を積極的に発信し、町民と町政の架け橋となることが議会広報誌の使命であり、その重要性はますます高まってくるものと考えます。

これからも多くの町民の皆様の声聞き身近な議会であるために、一層読みやすく親しみやすい議会広報誌「こんにちは議会です」を目指し、編集委員一同努力してまいります。

議会広報特別委員会

委員長 木村 啓 治

副委員長 佐々木 徹

委員 吉見 拓也

## 【 議会広報にみる町議会の変遷 】

※敬称略

発行号	1号	50号	100号	150号	200号
発行年	昭和45年6月	昭和57年6月	平成7年2月	平成19年8月	令和2年2月
議長	浦本幸太郎	赤石 由雄	穴吹 広義	香川 烈	竹ヶ原利明
副議長	山本 信重	穴吹 広義	山本 忠	造田 定男	須見 栄一
町長	松実 菱三	田中 直吉	外山 輝雄	藤本 悟	西野 尚志
広報委員長	浦本幸太郎	小林 昭一	瀧山 正興	沖田 浩一	木村 啓治
議員定数	18名	16名	14名	9名	9名
人口	5,209人	3,980人	3,806人	3,115人	2,323人

# 令和元年 第4回定例会

(開期日程：令和元年12月10日)

## 審 議 結 果

No	議 件 名	結 果
1	議会議員の議員報酬等に関する条例の一部を改正する条例の制定について (議会議員の期末手当の支給月数を改正するもの)	原 案 可 決
2	特別職給料額等支給条例の一部を改正する条例の制定について (特別職の期末手当の支給月数を改正するもの)	原 案 可 決
3	雨竜町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について (国家公務員の給与改定に準じて、雨竜町職員に対する給与を改正するため、本条例を改正するもの)	原 案 可 決
4	令和元年度雨竜町一般会計補正予算(第5号) (1,164万8千円を増額補正し、38億9,093万3千円とする)	原 案 可 決
5	雨竜町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について (子ども・子育て支援法に規定する特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準の改正に伴い、本条例の一部を改正するもの)	原 案 可 決
6	雨竜町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について (地方公務員法及び地方自治法の一部改正に伴い、本条例を制定するもの)	原 案 可 決
7	地方公務員法及び地方自治法の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について (地方公務員法及び地方自治法の一部改正に伴い、本条例を制定するもの)	原 案 可 決
8	雨竜町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例の制定について (成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴い、本条例の一部を改正するもの)	原 案 可 決
<b>補 正 予 算</b>		
◇令和元年度雨竜町一般会計補正予算(第5号) これまでの予算に1,164万8千円を追加しました。 (主な内容)		—原案可決—
総 務 費	公用車購入費	5,700,000円
総 務 費	ふるさと創生基金積立金の増	1,080,000円
住 民 課	後期高齢者医療広域連合療養給付費負担金の増	2,058,000円
災 害 復 旧 費	災害復旧調査測量設計負担金	2,090,000円
補正後の予算総額		38億9,093万3千円

# 行政常任委員会報告

第4回定例会までの閉会中に行った所管事務調査の結果内容を報告いたします。

期 日：令和元年11月21日（木）・22日（金）

## <調査結果>

### ○道の駅の施設整備と管理運営について

本町の道の駅は平成9年にオープンし、その後、道の駅施設機能の更なる充実を図るため増築を行い、地域情報の提供や文化教養、観光情報発信を行う地域振興施設の重要な役割を担いながら、多くの来場者の休息と憩いの場所として活用されてきた。

しかし、道の駅機能の柱の一つとして開業当時から使用しているトイレは施設的に古く、特にイベント開催時には手狭で利用者に不便をかけており、快適なトイレとして気兼ねなく使用してもらうには改装を行う必要がある。

施設の増改築を実施する場合には、財政事情や建築基準法など課題はあるが、北側広場の効果的な活用や各種施設の状況を把握しながら、利用者に喜ばれる道の駅として施設全体の在り方について早急に検討されたい。

また、加工室を含む周辺施設においても利用者の意見も考慮し、少しでも多くの方に利用していただける施設として指定管理者とも連携し、整備や運用など具体的な方策を検討されたい。

## <現地調査>

現地調査では、11月21日に「観光看板」「第2分団詰所改修工事」「新十津川町学校給食センター」「わかば団地道路改良工事」の現地調査を行いました。



【観光看板】



【第2分団詰所改修工事】



【学校給食センター】

## 議会を傍聴してみませんか？

定例会は年4回、臨時会については、必要に応じて開かれます。

事前のお申し込みは不要ですので、直接、議場にお越しください。

次の定例会は3月に開かれる予定です。



# 令和元年第4回定例会一般質問

12月10日に4人の議員が町政執行に対し、4項目の一般質問をしました。

## 「商工業の活性化に向けて」

質問順1番

佐々木 徹 議員



### 質 問

本町では元気のある町を形成するために、商工業者自らが特色のある商工業の振興と経営安定を目指すことを目的とした「商工業振興・地域雇用推進事業」を進めているところであります。この事業は平成22年度から実施され、本年6月には事業内容の見直しを行ったところでありました。

ですが、人口減少が進む中、商工業の活性化にむけては、今後においてもさらに経営基盤の安定が図られていくことが必要と考えられ、そのためには一度補助を受けた当該店舗の改装や改築、事業拡大に向けた支援をある程度年数が経過した店舗に再度補助を行うなど、支援の拡充を考えてはどうか、町長に伺う。

### 町 長

商工業の活性化におきましては、商工会が中心的な役割を果たしていくことが大切でありまして、町としても商工会とともに商工振興を進めていく必要があると考えております。

商工会からの要望を踏まえ、本年6月に商工業振興・地域雇用推進事業の改正を行いまして、空き店舗対策、事業等に限られますが、一度補助を受けた事業主も再度補助を受けることができるように事業の拡充を図ったほか、新規事業に係る補助限度額、200万円から300万円に大幅に引き上げ、さらに令和4年度までの4年間事業期間の延長したところでございます。質問にありました、本事業で一度補助を受けた店舗に対しての再度の補助は、本年度改正を行ったばかりのため現時点

では考えてはおりませんのでご理解願います。

### 再質問

6月に補正予算の議決を受け、雨竜町商工業振興・地域雇用推進事業補助金交付要綱が改正され、4年間事業期間が延長となりましたが、努力している既存店舗への内容の拡充を含め、再度、行政支援を行えないか町長に伺う。

### 町 長

本町で実施している商工業振興・地域雇用推進事業にきましては、店舗改修、事業拡大を行った際に、最大300万円の補助を行うことで、近隣市町村に比べても、金額的にも雨竜町は町内商工業者を優遇している制度ですので、この制度を有効にご活用いただきたいと考えております。

また、繰り返しになりますが、本要綱が6月に改正したばかりでございますので、何か特別な事情が発生しない限り、再度、要綱の改正は難しいと考えておりますので、本制度を有効にご活用いただきたいと考えてございます。





# 「本町におけるスマート農業への 取り組みについて」

質問順2番

吉見 拓也 議員

## 質 問

現在、本町においては、国営土地改良事業等の圃場整備事業が進められておりますが、農業者の減少により、1戸当たりの経営面積も増える傾向にあります。農業者の減少に伴い、現状の農地を耕作するには農家の負担が多くなり、繁忙期の人材確保も大変な状況もあり、今後、本町の農業が心配されるどころです。

道内でも省力化や低コスト化に向けて、スマート農業を各自治体が本格的に取り組んでいるところですが、本町においても以前よりGPS等を活用した農作業の省力化を図る対策は必要との考えを示している中で、令和2年よりホクレンのRTK-GPSシステムが町内でも利用できることにより、より農業者には利用しやすい環境が整ってきております。

町内でも作業時の人材確保のために農機具の自動操舵やロボットトラクターの導入、また、安定した収量確保等のために、ドローンなどによるリモートセンシングなどを導入し、省力化やコスト削減、圃場管理を考えている農業者も増えてくる中、今後、町としてもスマート農業を取り組む政策を推進していかなければならないと思うが、町長の考えを伺う。

## 町 長

近年のICT、情報通信技術ですが、大変進歩しておりまして、人材・労働力不足を背景に国における成長戦略の1つとしてスマート農業の推進を掲げ、研究開発、実証実験が進められています。企業におきましても、技術開発が進められて、ロボットトラクター、ドローンによる圃場管理が実用化されつつありますが、導入コスト面、法整備の遅れなど今後における課題がたくさんあります。スマート農業は日進月歩でさらに進化しつつあり、今後普及されるものと思っておりますが、本町においては重点的に国営、道営による基盤整備事業を実施しまして、圃場の整備を大々的に進めてきています。

スマート農業の目指す1つの方向性であります作業の効率化、労働力の省力化のために小区画、不形成農地の大区画化をすでに進めてきていますが、今回、JAきたそらちが設置したRTK-GPSシステムが来年から利用できることになるということで、スマート農業へ移行しやすい環境が整備されてきたと思います。この環境基盤を生かして、農業機械の導入につきましては、国の補助事業をもとより、町やJAにおいても一部ではありますが、機械導入に活用できる助成制度もありますので、現行制度を活用して各農業者が個々の経営に見合った機械更新等を行いまして、省力化、コスト削減、圃場管理を考えて、スマート農業への移行を進めていくことが必要であると考えております。

## 再質問

近郊の市町村ではスマート農業推進のために、GPSガイダンス自動操舵や直進アシスト田植え機等の省力化に向けた推進事業を進めているが、機材の導入費用が高額で、農業者の負担も多く自治体の助成事業を利用しながら事業の後押しをしております。また、本町が進めている基盤整備事業も今後における農業には重要な事業であり、大区画ならではのリモートセンシングを用いた圃場管理や生育状況確認等も含め、農業者自身も取り進めていかなければならない課題であるが、町として現状の耕作地を維持していくためにも必要な取り組みでもあり、今後の担い手にも重要な政策ではあるが、本町でもスマート農業が普及していくための支援を図っていくべきではないか、再度町長の考えを伺う。

## 町 長

スマート農業におきましては、農業機械の導入も大切であるが、圃場管理、生育状況の把握も品質や収量の向上を図るためのスマート農業でのデータ積蓄の取り組みであると考えております。本町の農業にとりまして、ど

のような取り組みが最も重要なのか、今後関係機関、団体、農業者とともに協議してさらに検討してまいりたいと思います。

#### 再々質問

日々進んでいるスマート農業ではありますが、本町の農業を守るための必要な政策であるので、本町にとって友好的な取り組みを関係機関や農業者と連携をとり進めていただきたいと思います。

#### 町長

雨竜町の基幹産業である農業は、遠い将来まで絶対に守っていかなければならないと認識しております。そのために、これまで農業基盤の整備を重点に進めてきたところであり、スマート農業の取り組みについてもとても重要な課題であると考えております。今後におきましても適時、情報収集を的確に行いまして、関係機関、団体、農業者ともに十分協議を図りながら農業振興策を適切に進めてまいりたいと考えております。

## 都市と農村の交流について問う

質問順3番

野村 耕次郎 議員



#### 質問

平成27年第2回定例会一般質問の中で、都市と農村の交流について、町の姿勢を問いましたが、答弁された内容は「事業にあり方については十分協議・検討し、今後策定する雨竜町総合戦略や雨竜町第5次総合計画の中で反映する」との回答であり、その後、平成28年2月に雨竜町振興基本計画が策定され、約4年が経過しようとしているが、施策がどのように取り組まれているのか、町長の考えを伺う。

#### 総務課長

施策の取り組み状況でございますけれども、平成28年2月に策定した雨竜町5次総合計画である「雨竜町振興基本計画」において、施策の体系の中の町に人を呼び込む活動として、交都市住民との交流の促進を図ることとしていただいております。主な施策・事業としまして、ふるさと納税を通じて、本町の特産品を返礼品とし、PRを図り、雨竜町を知ってもらい、雨竜町に興味を持ってもらう取り組みを進めています。

特にうりゅう米についてはリピーターも多く長期継続購入されるなど、ふるさと納税を通じての雨竜町への関心は年々高まっており、平成30年度のふるさと納税の実績においては5,748件で1億7,081万2千円の

寄付をいただいた状況であります。また、都市部において、うりゅう米と中心としたPRのため、各種イベント開催に官民一体で参加し、都市住民に雨竜町の魅力を知ってもらうための取り組みも進めているほか、町に呼び込む活動として、農協青年部等による田んぼアートの制作、また雨竜町農業体験受入れ推進協議会で修学旅行生等を受け入れしている農業体験では、平成28年度からの4年間で約1,200人が訪れており、交流人口の促進が図れているところであります。さらに今年度から、うりゅう未来のまち・人づくり事業が実施しており、この事業を活用して雨竜町から都市に向かっての発信と交流が盛んに取り組まれている状況でございます。

#### 再質問

いろいろな施策に取り組まれ、成果が出てきていることは、おおむね評価するところでありますが、今後の課題として、人口減少が進む地域をいかに活性化するか、その1つの方策として都市部に住みながら過疎地域と継続的に関わり、地域住民と様々な形でつながる人を増やそうという関係人口を拡大してこうという施策が国で注目されています。ふるさと納税を通じて雨竜町に興味を持っている方や雨竜町にゆかりのある方などとの交流を拡大するなど関係人口の増加に向けた施策

を進めてはどうか、町長の考えを伺う。

## 町長

国においては、地方創生を進める中で、交流人口や定住人口という視点のほかに都市住民が地域との関わりを持つ関係人口を増やし、農山漁村を活性化させようという施策が取り沙汰されています。ふるさと納税では昨年11月から総務省の指導で返礼品に対する規定が3割と規制があり、寄付金も大幅に減少するのではないかと大変心配しておりましたが、返礼品の拡充やPRに力を入れ、昨年度大幅に寄付額が増加となったところでございます。

本年度も現時点では、昨年を上回る寄付額が期待できる状況でございます。寄付をいただいた方々のコメントを見ますと、皆さんうりゅう米がおいしい、雨竜町を今後も応援したいと数多くいただきありがたく思っております。また、リピーターも定着しつつあると感じているところであります。今年は、札幌市また東京都などの首都圏でイベントに参加し、うりゅう米の米すくいを出店し長蛇の列ができ好評だったと聞いております。米すくいを体験した方が笑顔で帰られ、おいしいうりゅう米を食していることと思っております。一部かもしれませんが雨竜町と関わりのある方が年々増加しているところでございます。

また、札幌市と東京近郊の雨竜町出身者で構成しているふるさと会、札幌は札幌うりゅう会、東京は東京雨竜会があり、札幌は毎年2回必ず交流がございました。東京雨竜会は2年に1度、団体長がお招きいただき東京で交流している状況でございます。みなさん雨竜

町に対する思いが強く、雨竜町を大切に思っ  
ていただいていることを肌で感じています。  
今後町としましてもふるさと会を大切にして  
いかなければならないと考えているところ  
でございます。このほかにも町外の方々と雨  
竜町との交流がありますけれども、今後さら  
に、雨竜町との関わりを増やしていく方策  
を都度検討して対応してまいりたいと思っ  
ております。

## 再々質問

検討するとの事でしたが、関わりのある  
人々は住民を応援したい、地域課題の解決  
に貢献したいと住民の思いに共感してくれ  
ます。そのような関係人口が増加すること  
が地域の活性化に繋がり、次の定住へのス  
テップになるのではないかと考えます。令  
和元年第2回定例道議会で、鈴木知事が  
関係人口の一層の拡大に向け前向きな考  
えを答弁されています。まず雨竜町へ来  
てもらおうきっかけを作り、本町に魅力  
を知ってもらい、第二のふるさとになる  
ような施策を再度要望し、今後の町長の  
施策を期待して答弁を終わります。

## 町長

いろいろな方法があると思いますが、町も  
知恵を出して、議会のご意見を伺いなが  
ら、関係人口を増やせるよう頑張ってい  
ます。雨竜町をPRして、一人でも多く  
の方が雨竜町に関係を持っていただき、  
転入し定住していただけるのが一番です  
が、2名の地域おこし協力隊も頑張っ  
ていただいているので、力を借りなが  
ら雨竜町をPRしていきたいと思  
います。



## 合同墓の建立について

質問順4番

木村 啓治 議員

## 質問

近年の少子高齢化や高齢者世帯の増加家族  
構成なども以前と違い、現在は自分でお墓  
を管理できても、子・孫へと継承していく  
には、

遠方で生活していることなどから、将来に  
渡っての維持管理が困難となってきた事  
例も出てきております。

また、時代背景において、お墓の建立や埋

葬方法に対する考え方や無宗教の家族も多々見られ、それぞれの宗教観にも変化があります。

今や出生数も少なく、また、お墓を引き継ぐ者がいない、お墓のことで子供たちに負担をかけたくないなどから、墓じまいやお墓を建てる費用が工面できないなどにより、先祖から受け継ぐお墓の維持・管理や埋葬方法に不安を持たれている町民の声も聞かれます。

このような状況から、ここ数年の間、全国の自治体や寺院・民間企業が管理運営する合同墓が設置されてきております。

近隣の砂川市・深川市ではすでに公営の合同墓の運用が開始されているなど、昨今の状況を踏まえたとき、本町でも合同墓の設置が必要であると考えますが、町長の考え方を伺います。

## 町長

合同墓に関するご質問ですが、お墓に対する町民の皆さんの考え方につきましては、近年自治体で設置する合同墓のついでの記事が新聞等で報道されているほか、都市部の墓地、埋葬事情につきまして、テレビで放映されていることもあり、お墓のあり方、継承について考える方が多くなっていると思っております。

実際に少子化、核家族化等で維持継承が困難になりつつあるものもございます。他の自治体で設置した合同墓を希望する町民の声もあり、墓地や埋葬に対するニーズも多様化していると感じています。すでに、担当レベルで調査して近隣の市町村との情報交換や情報収集しているところでございます。寺院等が設置する永代供養の墓地や埋葬施設あることから、現段階では合同墓の設置を検討しないとする自治体もありますし、合同墓建設にかかる課題、管理運営に係る課題も少なくないと聞いています。

首都圏では墓地そのものが不足していたり、地方都市では家族構成の変化に加え、経済的理由による事情もあると聞いておりますが、さらに小規模自治体で一定程度の需要があっても、将来にわたって維持できるのか、いろいろと課題も多く考えていかななくてはならないと思っております。

本町で一番大きな墓地である桜山、こちらが現在年間1件あるかないかの設置状況であり、それより多い数の墓じまいがございます。

その墓じまいの多くはお子さんが住んでいる都市の埋葬施設への移設であり、様々な事情により継承も移設もできない方が潜在的にいると思われまます。いずれにしても、合同墓の設置については、課題の一つであると認識しております。今後も引き続き町民の声を聞きながら検討材料を収集していきたいと思ひます。現段階で本町での建設が可能かどうか、どのような方法が良いのか、先進自治体を含め情報法収集をしまして、さらに検討していくべきか否か判断してまいりたいと思ひます。

## 再質問

町長の答弁をお聞きし、現状の認識は同じであると思ひます。大都市などでは寺院や民間企業による合同墓の設置が期待できるものの、本町のような小規模自治体では、やはり自治体が主体性を持って取り組むことが求められると思ひます。

設置においては、様々な課題もあると思ひますが、先進自治体の事例も参考に、是非、設置に向けて前向きに検討していただくことを申し上げ、質問を終わります。

## 町長

小規模自治体では行政が主体性をもって取り組むべきというご意見であります。小規模自治体ならではの課題、本町特有の課題がございます。今後の検討材料の収集によって見えるところでございます。墓地や埋葬に対するニーズが多様化していることは認識しておりますが、ご意見として受け止め、先進自治体を含めて情報収集し、その上で検討すべきか考えていきます。現段階では喫緊の課題ではないと考えております。一番問題なのは、管理運営が問題となりますので、十分検討し将来的に時間をかけて考えていきたいと思ひます。

議会議長あての文書は

## 議会事務局へ

<送付先>

〒078-2692

雨竜郡雨竜町フシコウリウ104番地

雨竜町議会議長あて

## おもな議会のうごき (令和元年11月～令和2年1月)

### 11月

- 9日 雨竜小学校開校50周年記念式典・祝賀会 全議員
- 10日～12日 空知町村議会議長会道外行財政制度調査及び第63回町村議会議長全国大会(千葉県・東京都) 議長
- 12日 雨竜町社会福祉大会 副議長
- 13日 雨竜土地改良区「興農壮士」建碑式 議長他
- 17日～20日 全国市町村国際文化研修所セミナー及び議員研修 沖田議員他
- 21・22日 行政常任委員会
- 29日 議会運営委員会

### 12月

- 10日 第4回定例会
- 12日 消防行政懇談会 議長他
- 17日 雨竜町商工会年末懇話会 議長
- 23日 議会広報特別委員会

### 1月

- 7日 雨竜消防団出初式 全議員
- 8日 雨竜町商工会新年交礼会 議長
- 12日 雨竜町成人式 議長
- 23日 議会広報特別委員会
- 24日 雨竜地区連合会旗開き 議長他
- 30日 大山口良二氏北海道社会貢献賞(自治功労賞)受賞祝賀会 全議員

## 議員研修報告

令和元年11月17日～20日の4日間、沖田議員、野村議員、木村議員、吉見議員の4名で、滋賀県全国市町村国際文化研修所「市町村議会議員特別セミナー」そして、本町の特産品推進協議会が特産品のサンプル作成などで協力していただいている大阪府の「幸南食糧」、「米匠庵」を視察してきました。

市町村議会議員特別セミナーでは、「地方財政の現状と課題」、「最先端で変わる地域と自治体の未来」など4名の講師から、地方財政が切迫している今日、一般財源の充実・確保し健全化を目指すことが重要であること、また、デジタル、AIなどを取り入れ自治体も変わっていかねばならない等の講義を受けてきました。

また、セミナー後の議員研修では、関西では有名な米卸店であり全国各地の米を扱っている「幸南食糧」、そして、お米の魅力を全国に発信するをコンセプトに、お米の販売、

地域農産物の加工品開発、流通まで手掛け、米の消費拡大に力を入れている、関連会社の「米匠庵」を訪問し、



〔幸南食糧にて〕

社長、工場長、チーフ担当者と懇談しました。また、当日は社長のご厚意で本社がある松原市太田副市長と面会するため、松原市役所も訪問してきました。



〔松原市役所にて〕

今回の研修で、お会いした方々とのご縁を大切に、これからの議員活動に生かしていきたいと思います。

(報告者 沖田浩一)

## 議会広報特別委員会



木村啓治委員長  
佐々木徹副委員長・吉見拓也委員